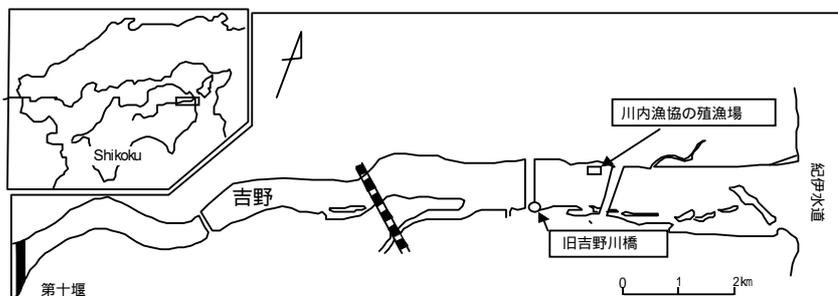


平成13年度スジアオリ優良品種作出技術開発

牧野賢治・廣澤 晃

人工採苗技術を利用して、目的に合ったスジアオリの優良品種を選別し、養殖業者に提供することを目的とする。なお、本事業はフロンティアテクノ21推進事業による。



野外養殖試験

昨年、室内試験により選別された高水温耐性株の特性を現場で実証するために、野外養殖試験を実施した。

材料及び方法

平成13年10月5日に高水温耐性株と生長を比較するため、特別な特性をもたない普通株4株を人工採苗した。人工採苗されたそれぞれの網を10月12日に吉野川内の川内漁業協同組合の養殖漁場に展開し、各スジアオリ株の生長を比較した。なお、試験養殖期間中の水温、塩分推移を把握するために、垂下水深80cmにメモリー式塩分水温計を設置した。

結果

養殖試験は11月13日まで行った。葉長を比較すると、普通株4株とも10～30cmの生長であったが、高水温耐性株は70～100cmに生長していた。

試験養殖期間中、垂下水深80cmの日平均水温は15.8～22.5℃、日平均塩分は5.1～24.6の範囲で推移した(図2、3)。

考察

選別された高水温耐性株は野外実証試験において他のスジアオリ株に比べ著しい生長を示した。しかし、生長スピードが早い影響で色素が薄い藻体であった。今後、現場普及するためには、日射量の多い夏季または10月上旬に養殖水深を深くして、本養殖をおこない青ノリの品質を調べる必要がある。

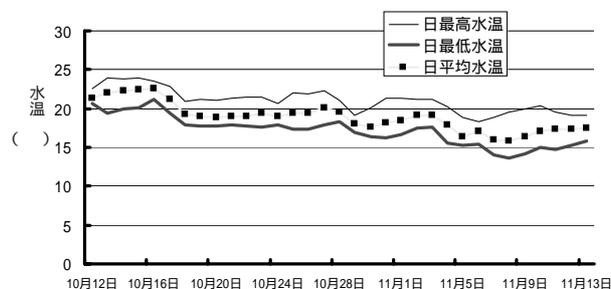


図2 養殖試験期間中の水温の推移

日付

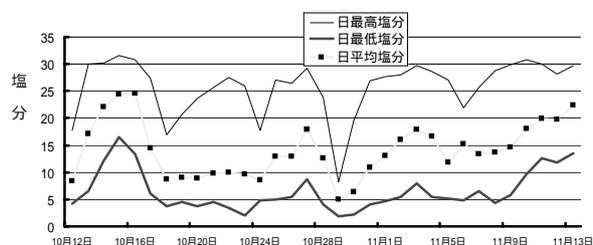


図3 養殖試験期間中の塩分の推移

日付